

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(令和6年度)

調査表

施設名	県立農業大学校農業総合研修センター及び宮崎県農業科学公園
指定管理者	学校法人宮崎総合学院
指定期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日(5年間)
県所管部課	農政水産部農村振興局担い手農地対策課

1 施設利用状況

指標	R6	R5	R4	増減理由等
研修実績(延べ人数)	12,602	12,244	11,644	昨年度の実績と比較して、全ての指標で増加した。要因としては、新型コロナが5類感染症に移行し、県民の行動制限がなくなったこと及びイベントが通常開催されるようになったことが考えられる。
研修宿泊者数(延べ人数)	1,833	1,351	927	
農業科学公園入園者数	158,185	145,224	119,766	
農業科学館入館者数	20,957	19,574	18,560	
コメント	行動制限がなくなったことで、実績は上向きになってきている。コロナ禍以前の水準まで実績が回復するように引き続き利用拡大に向けた取組が必要である。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収入	R6	R5	R4	支出	R6	R5	R4
指定管理料	69,487	69,487	69,487	人件費	52,195	52,692	51,717
利用料金	920	905	736	光熱水費	12,191	10,079	12,517
生産物売払収入	24,966	21,297	25,129	事務費	10,142	9,216	10,737
その他収入	667	180	42	その他	21,856	19,842	20,336
合計(①)	96,040	91,869	95,394	合計(②)	96,384	91,829	95,307
収支差額(①-②)	-344	40	87				
コメント	効率的な運用や費用の削減努力により、安定的な運営を行っており、評価できる。						

3 管理運営状況

※下線部分は、令和6年度に新たに取組んだ内容

事項	実施内容	
維持管理業務	清掃	研修センター事務室の日常清掃及び年1回の床面ワックスがけ、農業科学館・管理棟・ふれあい体験館・物産館・フラワーハウスの床面及び窓ガラス清掃、農業科学館雨樋清掃 等
	保守・点検	浴槽水質検査(年3回)、貯湯槽水質検査(年1回)、重油地下貯蔵タンク(年1回)、除草・芝刈り(年6回以上)、高木の枝剪定、ビニールハウス自動開閉装置動作点検(年1回)、環境制御システム動作点検(年1回)、ハウス用加湿機動作確認等(年1回)、ウォーターランド保守管理 等
	警備	(県立農業大学校による警備)
	修繕	公園高木管理、科学公園側花壇のL字縁石の補修、ぶどうハウスのビニル張り替え 等
	備品等管理	農業機械(トラクター、運搬車)部品交換・修理
	安全対策	危機管理マニュアルの整備、消防訓練の実施、土日祝日の公園職員複数勤務体制、公園遊具点検(年1回)、浴室・浴槽等衛生管理マニュアルの整備
	その他	公園全体の植栽管理(芝生、花壇、樹木等)
企画運営業務	サービス提供体制整備	利用者アンケート、農業総合研修センターの休日利用や農業体験休日受入への対応
	イベント等ソフト面充実	ぶどう収穫体験、ハロウィンかぼちゃ祭り、ホームページ・facebookによるPR、農業科学公園ルピナス通信発行 等
	施設設備等ハード面充実	-
	その他	-
管理運営体制	緊急連絡網の整備	
コメント	リカレント研修ではオンラインも活用し、受講者の確保に努めている。また、みやざき農業実践塾の運営等に精力的に取り組んでおり、就農者の確保につなげている。公園については季節ごとに適切な植栽管理がされており、イベントを開催する際には、地域や関係者と連携するとともに、プレスリリースやSNS等で周知するなど集客に向けた工夫をしている。	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	アンケート調査(リカレント研修10講座(計528人)で実施(回答508人)、宿泊利用者144人に実施(回答30人))	
	調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等
	(宿泊)ハマユウ2のブラインドの動作不良について	設備の不具合や備品調達は予算の範囲内で対応していく。
	(宿泊)毎年気持ちよく利用させていただいています。	今後も利用者が快適に宿泊できるよう適切な管理運営に努める。
	(リカレント研修)発音が悪くて聞き取りづらい。	講師との打ち合わせを通じて適切な研修内容になるよう努める。

5 総合評価

評価コメント	指定管理通算10年目であり、安定的な運営が行われ、農業の普及啓発や新規就農者の育成、イベントの開催を精力的に行っている。また、施設の利用促進や安全管理などに適切に取り組んでいる。
今後の課題と対応	施設や農業用機械等の老朽化が進んでいることから、日常のメンテナンスなど引き続き安全対策を重点的に行う。農業科学館の入館者増加に向けた取組の検討を行う。